

京都市民の皆様における運動・スポーツに関する意識・活動状況調査

1. 実施概要

(1) 調査方法	・ アンケート調査 (調査票を郵送のうえ、郵送またはインターネットにより回答)
(2) 調査対象	・ 18歳以上の市民3,000人 ・ 住民基本台帳からの無作為抽出
(3) 調査期間	・ 令和3年1月27日(水)～令和3年2月15日(月)
(4) 有効回答	・ 852(有効回答率28.4%) 郵送回答:701件, WEB回答:151件

2. 回答者属性

<区別内訳>

	人数(人)	比率
北区	75	8.8%
上京区	44	5.2%
左京区	108	12.7%
中京区	65	7.6%
東山区	13	1.5%
山科区	66	7.7%
下京区	54	6.3%
南区	49	5.8%
右京区	115	13.5%
西京区	85	10.0%
伏見区	154	18.1%
回答なし	24	2.8%
計	852	100.0%

<性別・年齢別内訳>

	男性	女性	無回答	回答なし	計(人)	比率
10～20歳代	23	48	1	0	72	8.5%
30歳代	39	60	1	0	100	11.7%
40歳代	62	83	2	0	147	17.3%
50歳代	41	80	0	0	121	14.2%
60歳代	54	88	0	0	142	16.7%
70歳以上	122	125	0	1	248	29.1%
回答なし	2	0	1	19	22	2.6%
計	343	484	5	20	852	100.0%
比率	40.3%	56.8%	0.6%	2.3%		

<職業別内訳>

職業	人数(人)	比率
自営業・フリーランス	69	8.1%
会社員・公務員等, 給与所得者	328	38.5%
家事専業	122	14.3%
学生	30	3.5%
無職	217	25.5%
その他	61	7.2%
回答なし	25	2.9%
計	852	100.0%

(注)◆コロナ前は2020年2月頃まで、コロナ後は2020年3月以降として調査を行いました。

◆百分比は小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

◆複数回答の百分比の合計は100%を超えます。

◆文中のNは設問に対する回答者数を示しています。

◆「前回調査」:平成27年実施の「市民のスポーツに関する意識・活動状況調査」

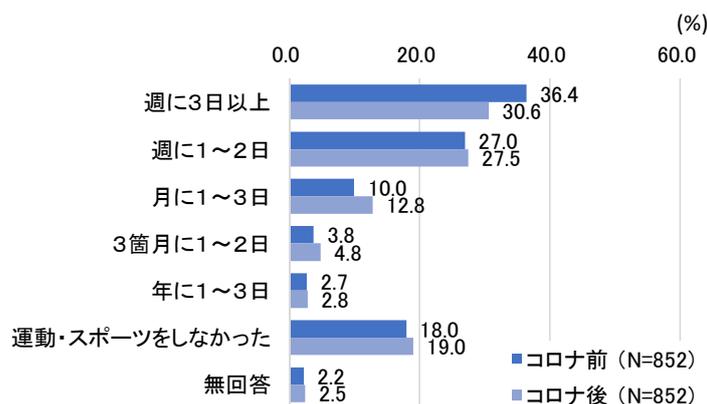
調査方法;調査票を郵送のうえ、郵送により回答(※インターネットによる回答受付は行わなかった。)

調査対象;18歳以上の市民3,000人(回収率29.3%)

3. 集計結果

(1) 運動・スポーツの実施頻度(コロナ前;N=852, コロナ後;N=852)

○週1日以上の運動・スポーツ実施率は、新型コロナウイルス感染拡大後は減少。
 コロナ前 63.4%, コロナ後 58.1% (前回調査は 53.2%)
 ○コロナ後は、特に週3日以上の実施率が大きく減少。運動・スポーツの実施率及び実施頻度の低下がみられている。
 ○運動・スポーツの実施が月1日に満たない人は、コロナ前 24.5%, コロナ後 26.6% (前回調査 20.5%)。



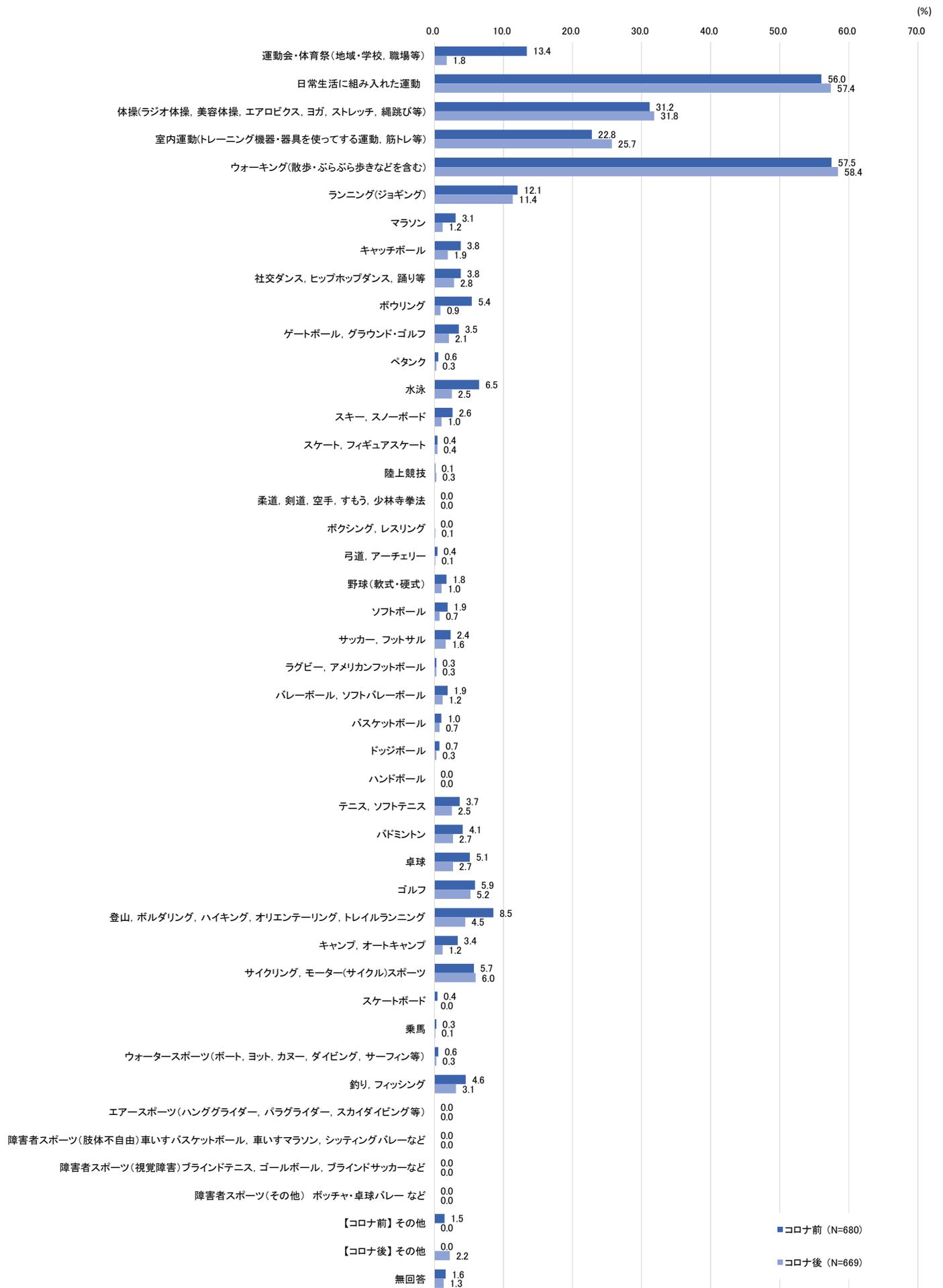
(2) この1年間に行った運動やスポーツの種類(コロナ前;N=680, コロナ後;N=669) 【複数回答】

○この1年間に行った運動やスポーツは、コロナ前後ともに「ウォーキング」「日常生活に組み入れた運動」「体操」「室内運動」が上位。これは、前回調査とほぼ同様の傾向。また、いずれもコロナ後の方が実施率は上昇している。
 ○コロナ後は、運動会・体育祭がほとんど開催されていないこともあり、大幅に低下している。また、ボウリング、登山等、水泳などの実施率が低下。

■コロナ前後で実施された運動・スポーツ(上位 15 位)

順位	コロナ前		コロナ後	
	種目	実施率	種目	実施率
1	ウォーキング(散歩・ぶらぶら歩きなどを含む)	57.5%	ウォーキング(散歩・ぶらぶら歩きなどを含む)	58.4%
2	日常生活に組み入れた運動	56.0%	日常生活に組み入れた運動	57.4%
3	体操(ラジオ体操, 美容体操, エアロビクス, ヨガ, ストレッチ, 縄跳び等)	31.2%	体操(ラジオ体操, 美容体操, エアロビクス, ヨガ, ストレッチ, 縄跳び等)	31.8%
4	室内運動(トレーニング機器・器具を使ってする運動, 筋トレ等)	22.8%	室内運動(トレーニング機器・器具を使ってする運動, 筋トレ等)	25.7%
5	運動会・体育祭(地域・学校, 職場等)	13.4%	ランニング(ジョギング)	11.4%
6	ランニング(ジョギング)	12.1%	サイクリング, モーター(サイクル)スポーツ	6.0%
7	登山, ボルダリング, ハイキング, オリエンテーリング, トレイルランニング	8.5%	ゴルフ	5.2%
8	水泳	6.5%	登山, ボルダリング, ハイキング, オリエンテーリング, トレイルランニング	4.5%
9	ゴルフ	5.9%	釣り, フィッシング	3.1%
10	サイクリング, モーター(サイクル)スポーツ	5.7%	社交ダンス, ヒップホップダンス, 踊り等	2.8%
11	ボウリング	5.4%	バドミントン	2.7%
12	卓球	5.1%	卓球	2.7%
13	釣り, フィッシング	4.6%	水泳	2.5%
14	バドミントン	4.1%	テニス, ソフトテニス	2.5%
15	キャッチボール	3.8%	ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	2.1%

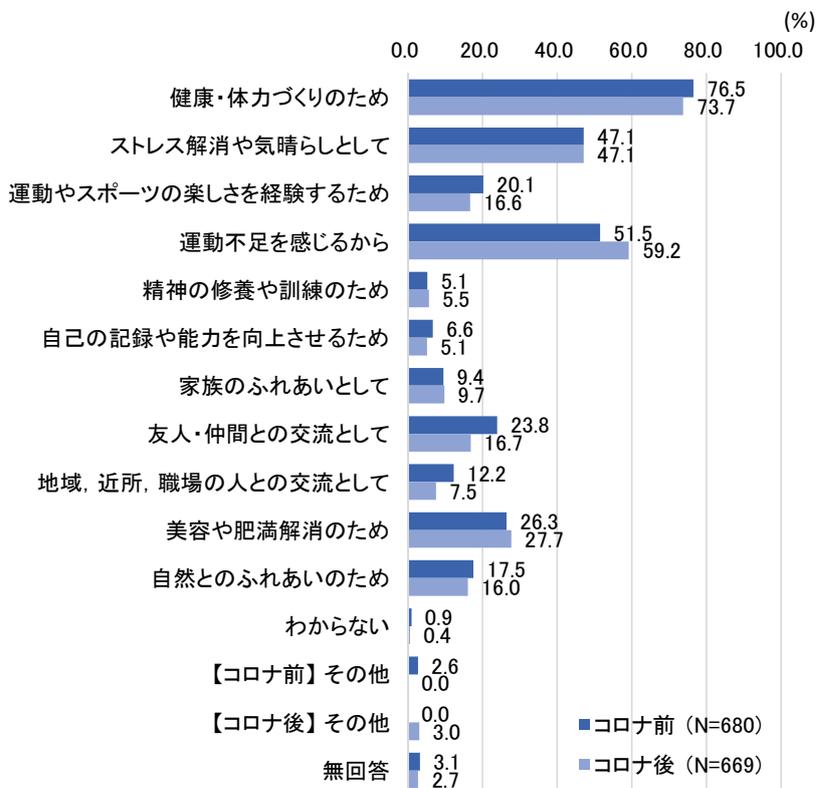
※コロナ前後ともに、「その他」を除く。



(3) 運動やスポーツをする理由(コロナ前;N=680, コロナ後;N=669)

【複数回答】

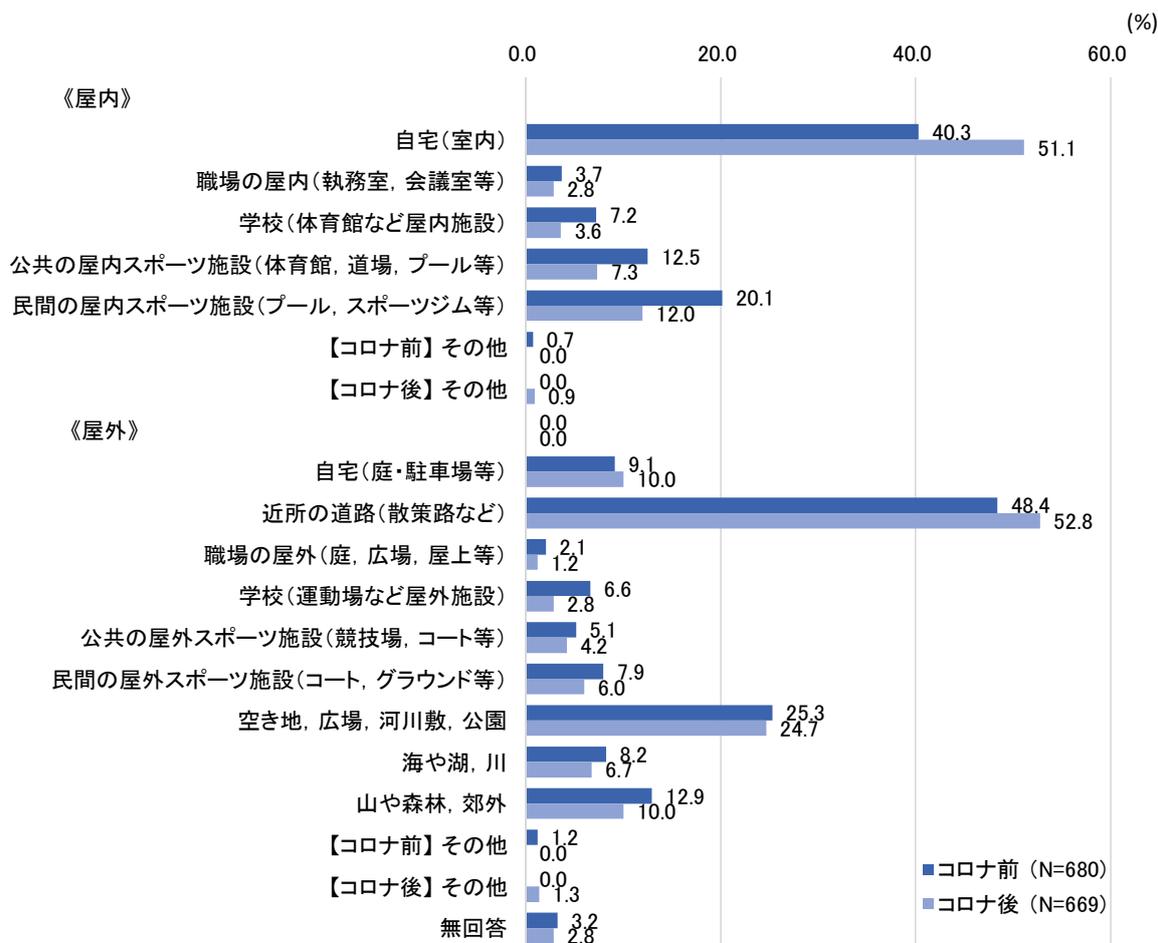
○運動やスポーツをする理由は、コロナ前後ともに、「健康・体づくりのため」「運動不足を感じるから」「ストレス解消や気晴らしとして」が多い。前回調査と同様の傾向。
○コロナ後は、「運動不足を感じるから」が増加し、「友人・仲間」や「地域、近所、職場の人」との交流を理由としたものが減少。



(4) 運動やスポーツをする場所(コロナ前;N=680, コロナ後;N=669)

【複数回答】

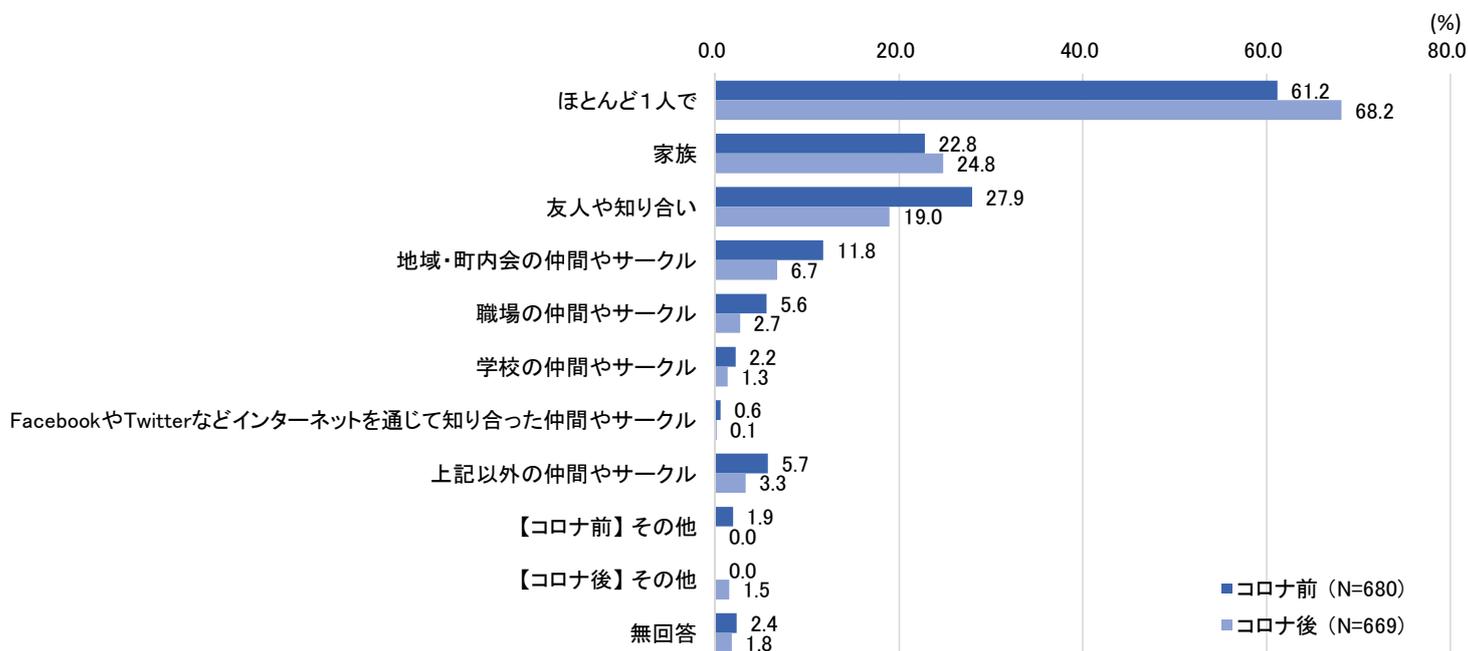
○運動やスポーツをしている場所は、コロナ前後ともに、「近所の道路（散策路など）」「自宅（室内）」「空き地、広場、河川敷、公園」が多い。
○コロナ後は、自宅（室内）や近所の道路が増加し、学校や屋内スポーツ施設（公共・民間）が減少。



(5) 運動やスポーツを一緒にする人(コロナ前; N=680, コロナ後; N=669)

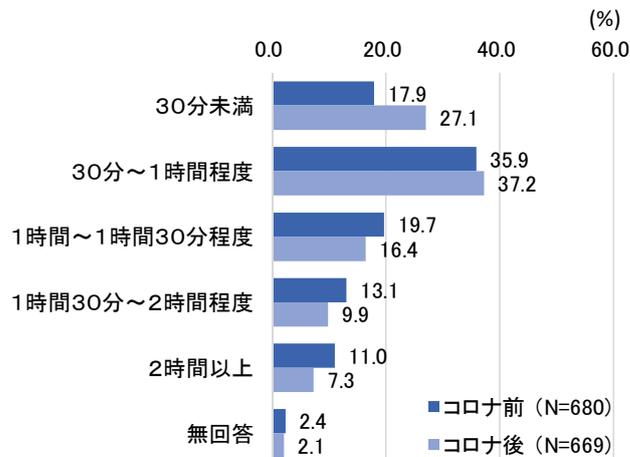
【複数回答】

○コロナ前後ともに、「ほとんど1人で」運動やスポーツをする人が最も多いが、「友人や知り合い」「家族」と一緒にする人も多い。前回調査と同様の傾向。
 ○コロナ後は、「ほとんど1人で」が増加し、友人や知り合い、仲間やサークルが減少。



(6) 1回に行う運動・スポーツの平均時間(コロナ前;N=680, コロナ後;N=669)

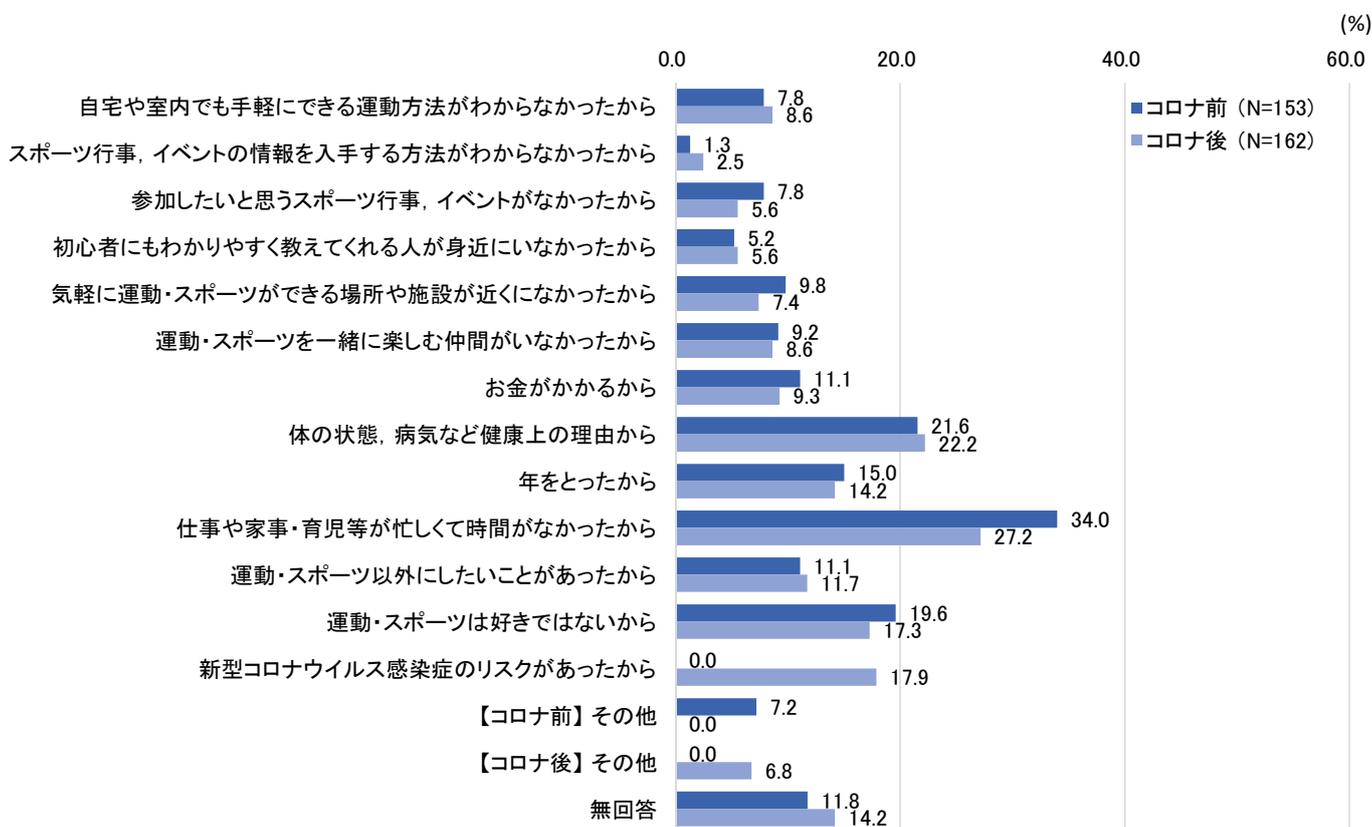
○コロナ前後ともに、「30分～1時間程度」が最も多い。
 ○コロナ後は、30分未満が増加し、運動・スポーツの実施時間の減少傾向がみられる。



(7) 運動・スポーツをしなかった理由(コロナ前;N=153, コロナ後;N=162)

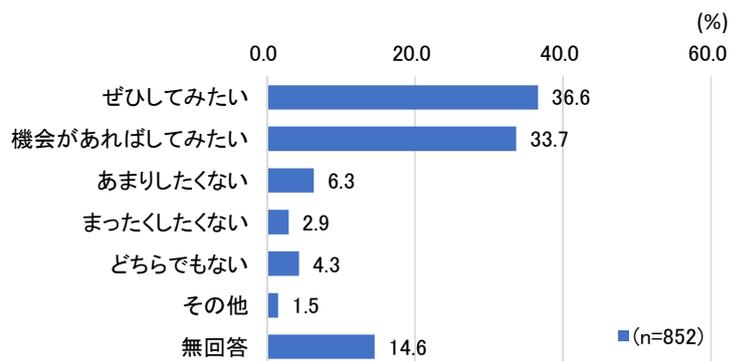
【複数回答】

○コロナ前後ともに、「仕事や家事・育児等が忙しくて時間がなかったから」が最も多く、「体の状態, 病気など健康上の理由から」がつづく。
 ○コロナ後は、仕事や家事・育児等の忙しさをあげる人が減少する一方で、新型コロナウイルス感染リスクをあげる人が 17.9%であった。



(8) 今後、運動・スポーツをしてみたいか(N=852)

○「ぜひしてみたい」が36.6%、「機会があればしてみたい」が33.7%で、約7割が、今後、運動やスポーツをしてみたいと回答。



(9) 今後行ってみたい運動やスポーツの種類(N=773)

【複数回答】

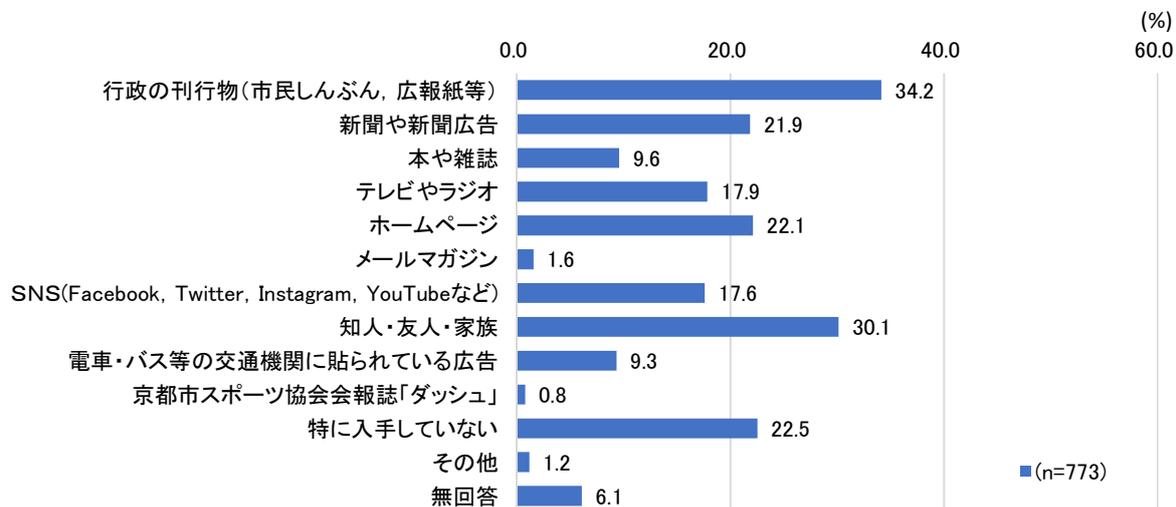
○今後、行ってみたいと思う運動・スポーツは、「ウォーキング(散歩・ぶらぶら歩きなどを含む)」「日常生活に組み入れた運動」「体操(ラジオ体操, 美容体操, エアロビクス, ヨガ, ストレッチ, 縄跳び等)」「室内運動(トレーニング機器・器具を使ってする運動, 筋トレ等)」のような手軽にできる項目が上位にあげられている。

○また、「登山, ボルダリング, ハイキング等」「ランニング (ジョギング)」「キャンプ, オートキャンプ」「水泳」「テニス, ソフトテニス」等が一定数を示しているほか、「運動会・体育祭等」が9.4%であった。

(10) 運動・スポーツに関する情報の入手媒体 (N=773)

【複数回答】

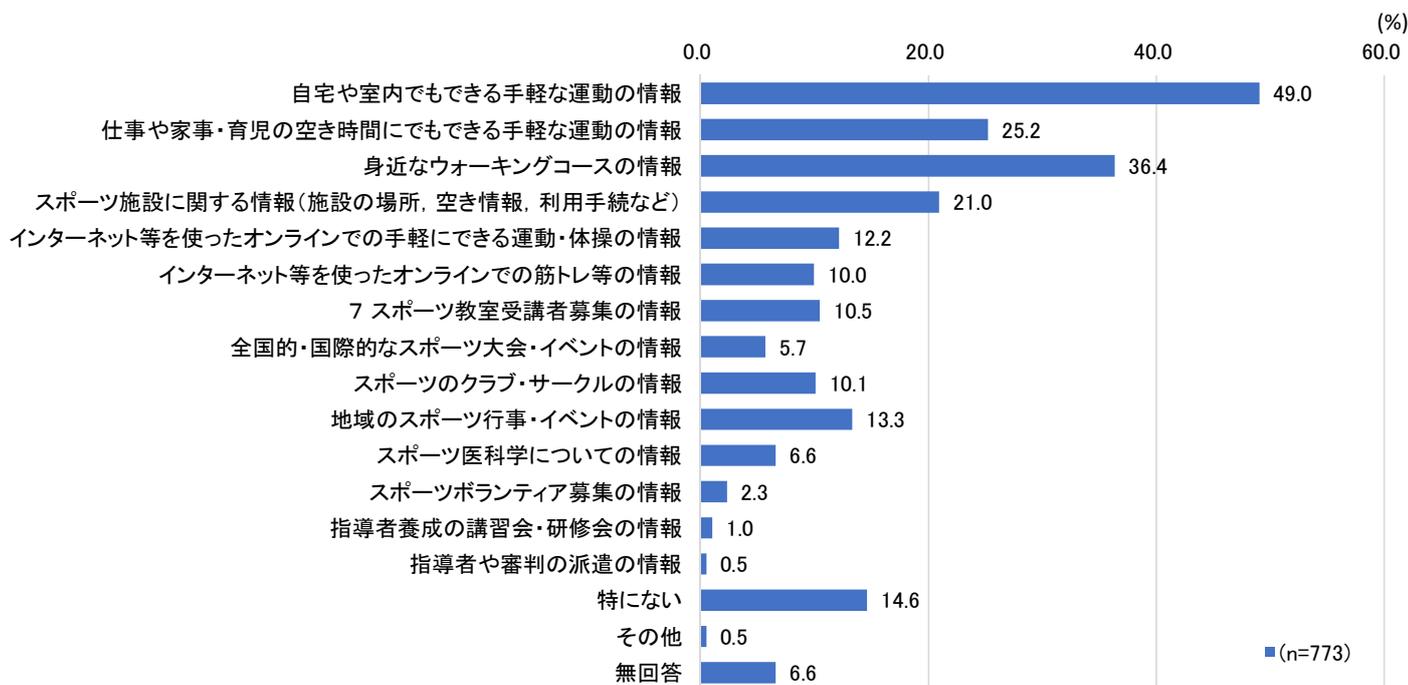
○運動・スポーツに関する情報は、「行政の刊行物（市民しんぶん、広報紙等）」「知人・友人・家族」「ホームページ」「新聞や新聞広告」などから入手されている。
○一方、運動・スポーツに関する情報を「特に入手していない」人が約2割であった（前回調査では約3割）。



(11) 今後、入手したい運動・スポーツに関する情報 (N=773)

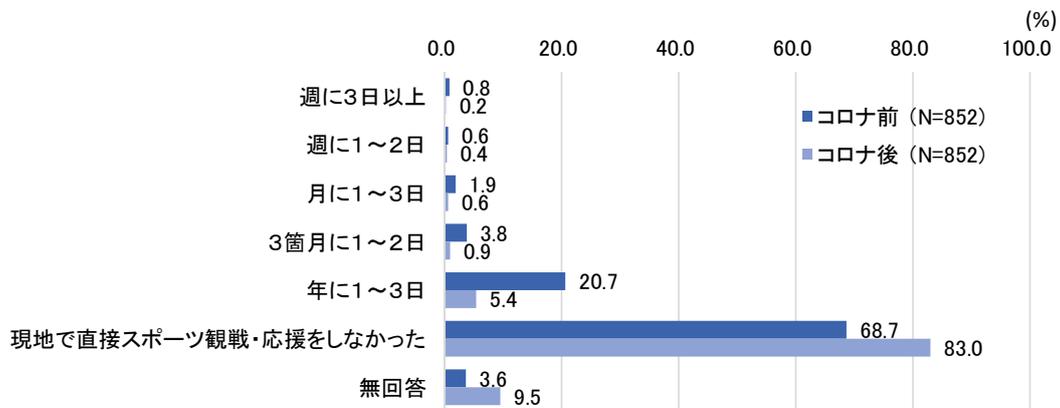
【複数回答】

○今後、入手したい運動・スポーツに関する情報は、「自宅や室内でもできる手軽な運動」「身近なウォーキングコース」「仕事や家事・育児の空き時間にでもできる手軽な運動」といった運動の情報や「スポーツ施設に関する情報」などが多かった。



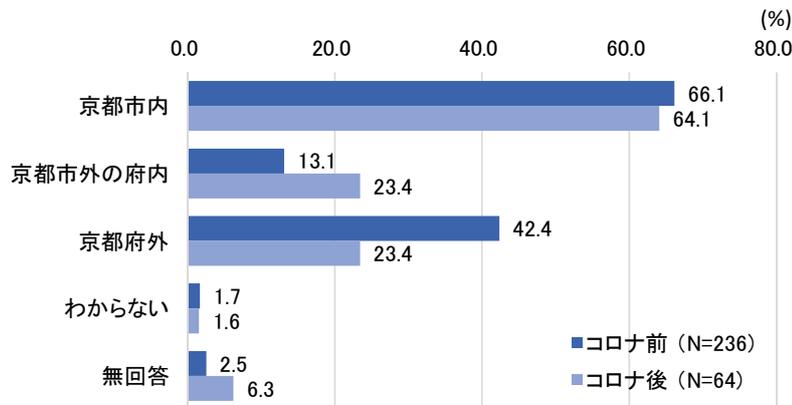
(12) 現地で直接スポーツ観戦・応援をしたか(コロナ前 N=852, コロナ後 N=852)

○年1日以上、現地で直接スポーツ観戦・応援をした人は、コロナ前は27.8%の一方で、コロナ後は7.5%と大幅に減少した。(前回調査では38.2%)
 ○観戦回数は、コロナ前後ともに「年に1～3日」が最も多い。



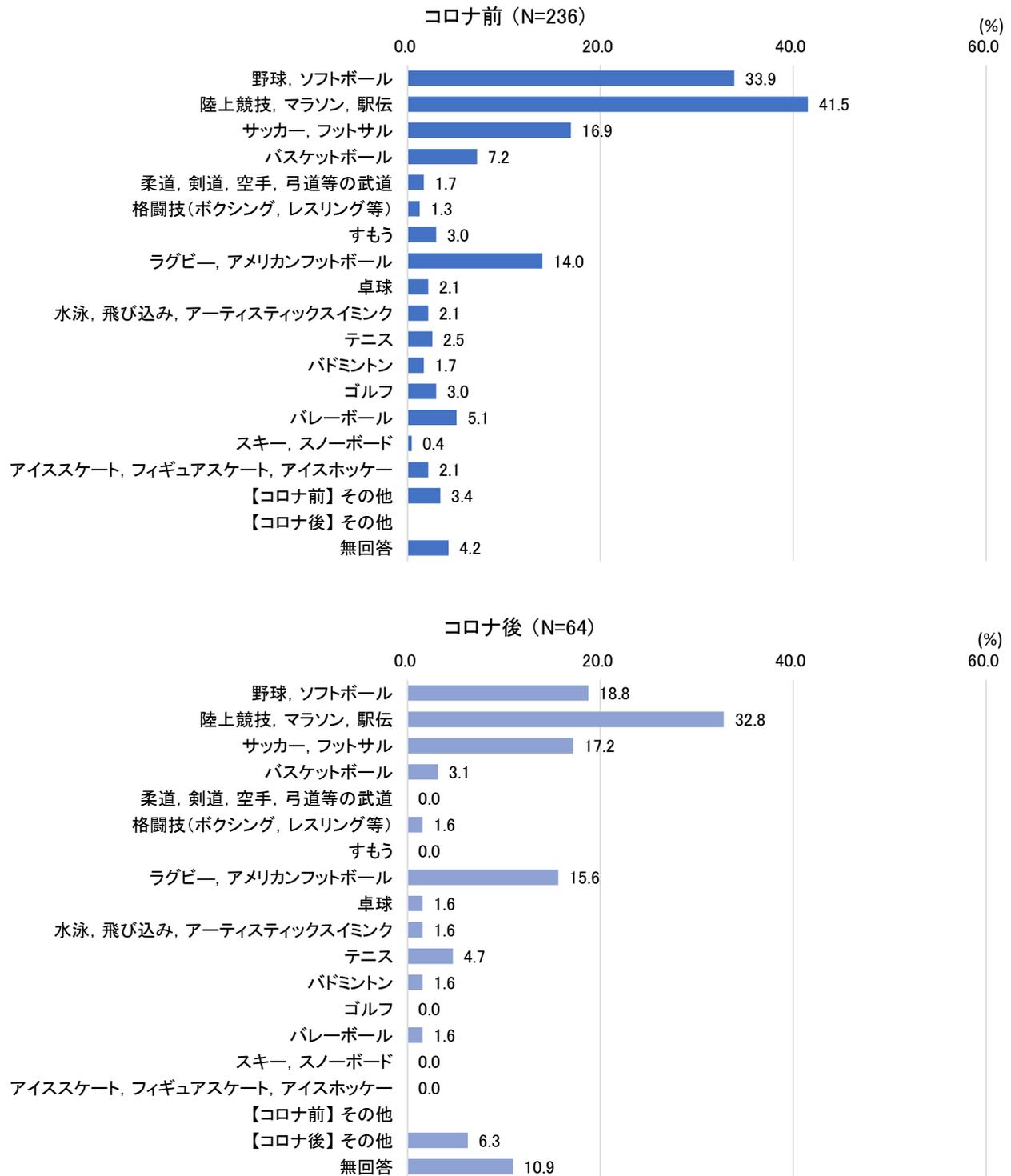
(13) 直接スポーツ観戦・応援をした場所(コロナ前 N=236, コロナ後 N=64) 【複数回答】

○現地で直接スポーツ観戦・応援をした場所は、コロナ前後ともに「京都市内」が最も多い。
 ○コロナ後は、「京都市外の府内」が増加し、「京都府外」が大きく減少。



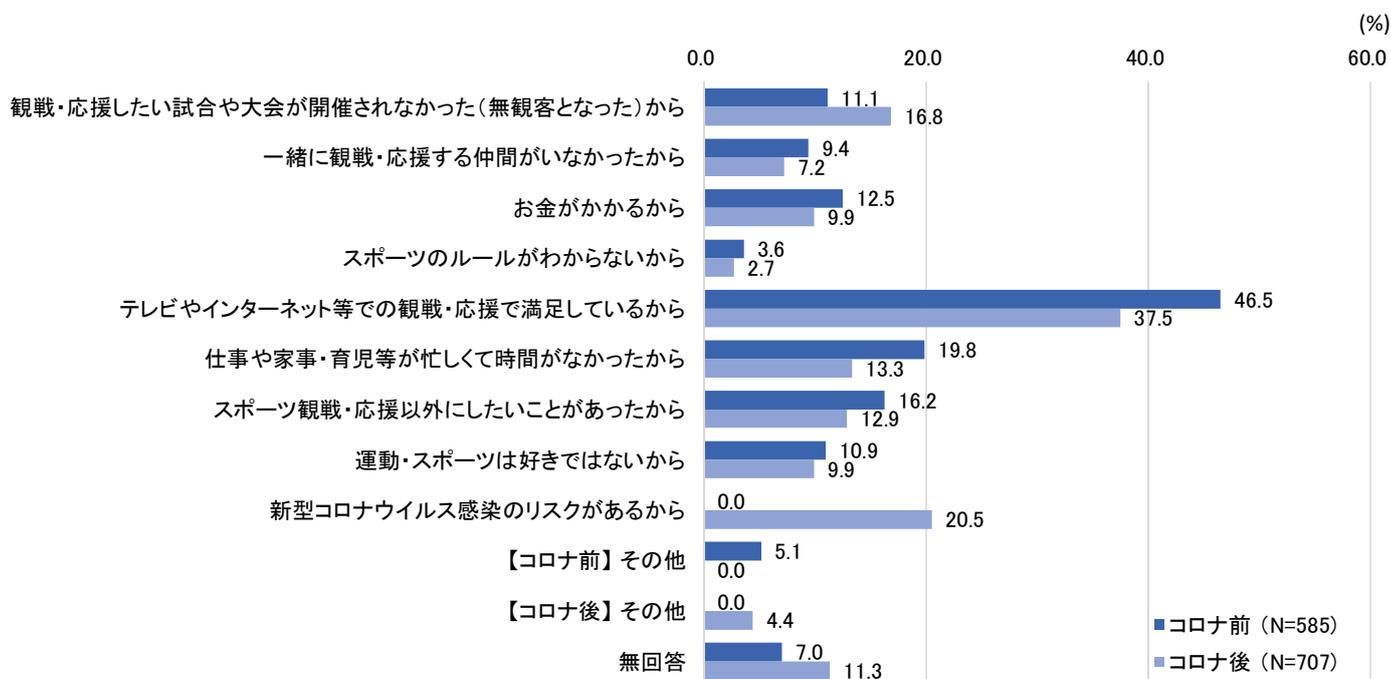
(14)直接スポーツ観戦・応援をしたスポーツの種類(コロナ前 N=236, コロナ後 N=64)【複数回答】

○現地で直接スポーツ観戦・応援をしたスポーツは、コロナ前後ともに「陸上競技, マラソン, 駅伝」「野球, ソフトボール」「サッカー, フットサル」「ラグビー, アメリカンフットボール」が上位であった。
 ○なお、コロナ後は、スポーツの試合等の開催が大幅に減少したこともあり、回答数が 64 件であった。



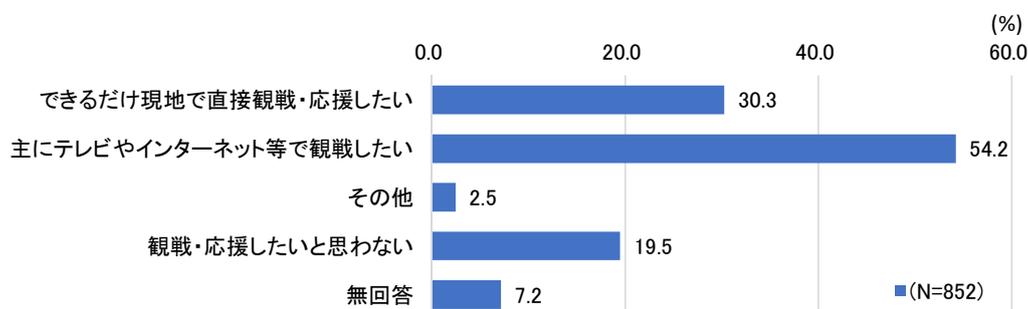
(15) 現地で直接スポーツ観戦・応援をしなかった理由(コロナ前 N=585, コロナ後 N=707) 【複数回答】

○現地で直接スポーツ観戦・応援をしなかった理由としては、コロナ前後ともに「テレビやインターネット等での観戦・応援で満足しているから」が最も多い。
 ○次いで、コロナ前は「仕事や家事・育児等が忙しくて時間がなかったから」「スポーツ観戦・応援以外にしたいことがあったから」、コロナ後は「新型コロナウイルス感染のリスクがあるから」「観戦・応援したい試合や大会が開催されなかった(無観客となった)から」がづく。



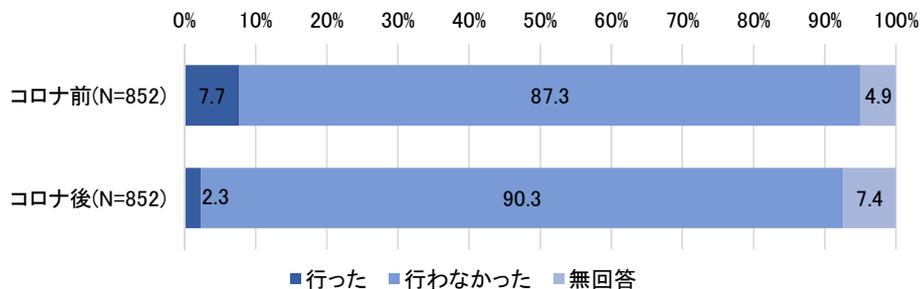
(16) 今後、スポーツを観戦・応援したいか(N=852) 【複数回答】

○今後は、約7割が今後もスポーツ観戦・応援したいと回答。半数以上が「主にテレビやインターネット等で観戦したい」、約3割が「できるだけ現地で直接観戦・応援したい」。
 ○「観戦・応援したいと思わない」は約2割みられる。



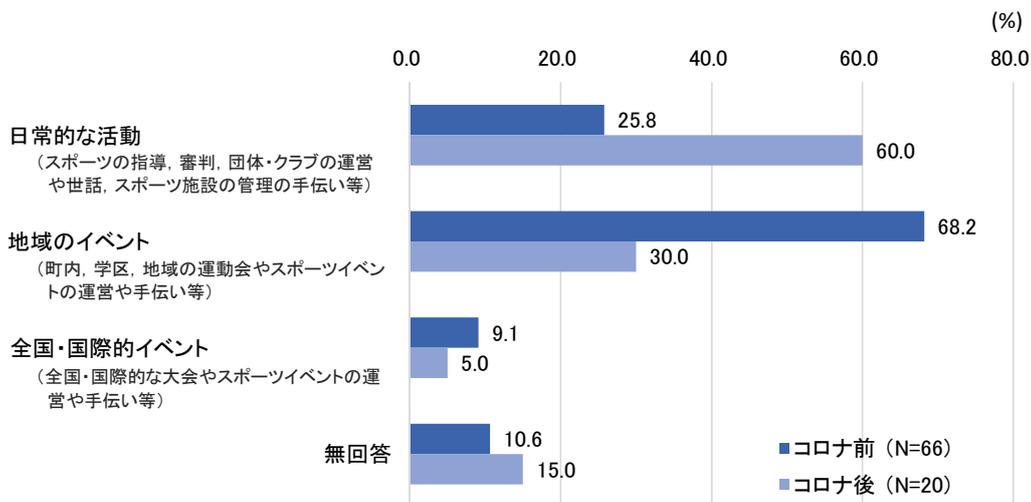
(17) スポーツに関するボランティア活動を行ったか(N=852)

○スポーツに関するボランティア活動の実施率は、コロナ前は7.7%、コロナ後は2.3%となり半分に減少。(前回調査では、ボランティア実施率は5.7%)
 ○コロナ前後に関わらず、ボランティア活動の実施率は1割未満と低い。



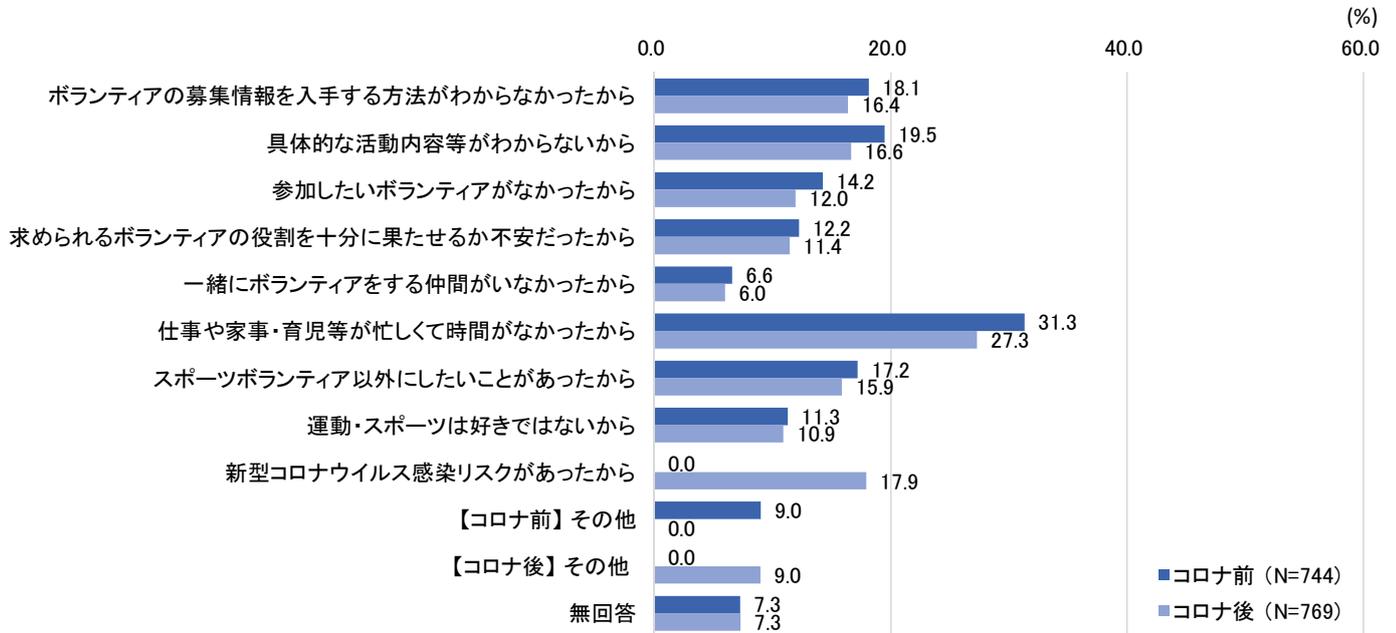
(18) スポーツに関するボランティア活動の内容(コロナ前 N=66, コロナ後 N=20) 【複数回答】

○実際に行ったスポーツに関するボランティア活動の内容は、コロナ前は「地域のイベント(町内, 学区, 地域の運動会やスポーツイベントの運営や手伝い等)」, コロナ後は「日常的な活動(スポーツの指導, 審判, 団体・クラブの運営や世話, スポーツ施設の管理の手伝い等)」が中心となっている。



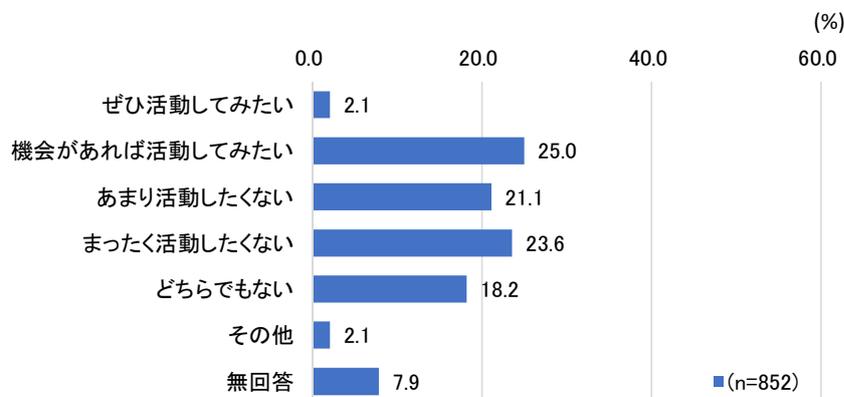
(19)スポーツに関するボランティア活動をしなかった理由(コロナ前 N=744, コロナ後 N=769)【複数回答】

○スポーツに関するボランティア活動をしなかった理由としては、コロナ前後ともに「仕事や家事・育児等が忙しくて時間がなかったから」が最も多い。
 ○次いで、コロナ前は「具体的な活動内容等がわからないから」「ボランティアの募集情報を入手する方法がわからなかったから」、コロナ後は「新型コロナウイルス感染リスクがあったから」「具体的な活動内容等がわからないから」がつづく。



(20)今後、スポーツに関わるボランティア活動をしてみたいか(N=852)

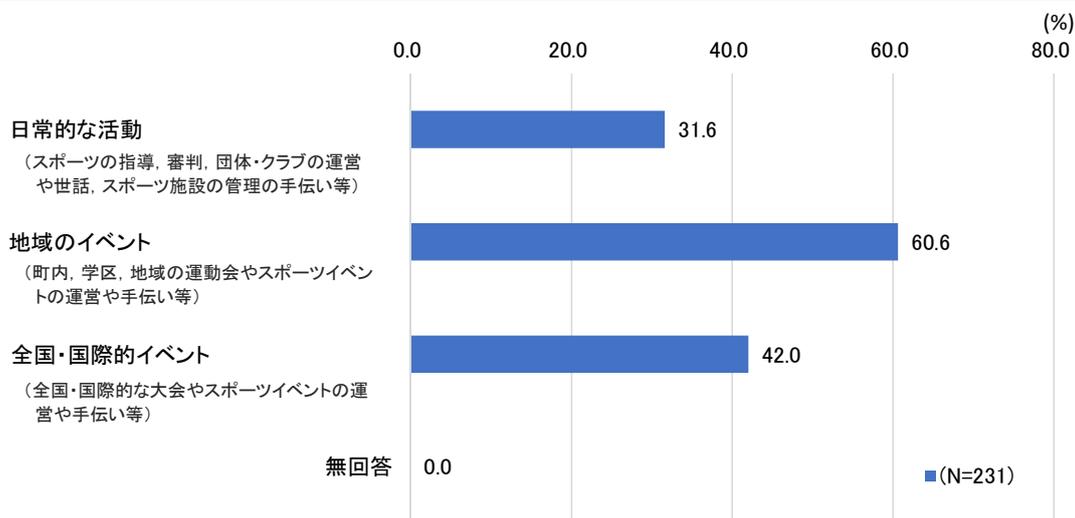
○「ぜひ活動してみたい」が 2.1%、「機会があれば活動してみたい」が 25.0%で、約 3 割が、今後、スポーツに関わるボランティア活動をしてみたいと回答。(前回調査では、質問形態が異なるがボランティアへの参加意欲は 24.9%)
 ○一方、活動したくない(「あまり活動したくない」と「まったく活動したくない」の合計)人は約 4 割。(前回調査では、ボランティアへ参加したくない割合は 35.9%)



(21) やってみたいボランティア活動(N=231)

【複数回答】

○やってみたいスポーツに関するボランティア活動としては、「地域のイベント（町内，学区，地域の運動会やスポーツイベントの運営や手伝い等）」が約6割と最も多く、次いで「全国・国際的イベント（全国・国際的な大会やスポーツイベントの運営や手伝い等）」が4割、「日常的な活動（スポーツの指導，審判，団体・クラブの運営や世話，スポーツ施設の管理の手伝い等）」が約3割となっている。



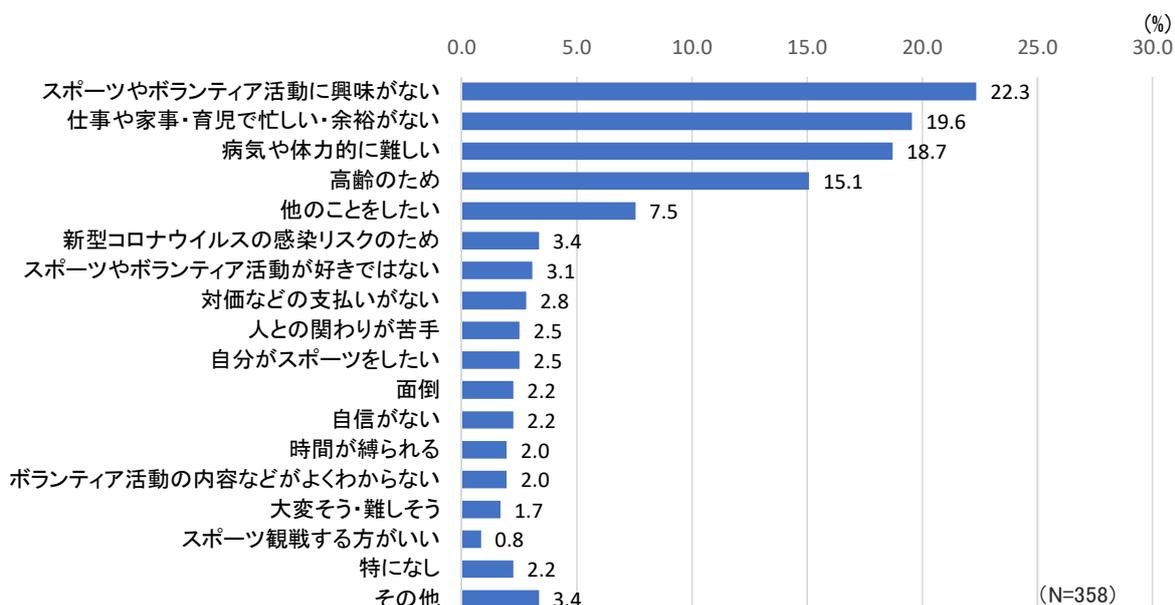
(22) スポーツに関するボランティアをやりたくない理由(N=381)

【自由記述】

○スポーツに関するボランティアをやりたくない理由としては、大きく分類すると、「スポーツやボランティア活動に興味がない」が最も多く、次いで、「仕事や家事・育児などで時間がない・余裕がない」「病気や体力的な理由のため」「高齢のため」「他のことがしたい」などがつづく。

○「新型コロナウイルスの感染リスク」などを理由にあげる人は、3.4%だった。

○「自分がスポーツをしたい」「観戦する方がいい」など、する・みるスポーツの方がよいという人もみられる。

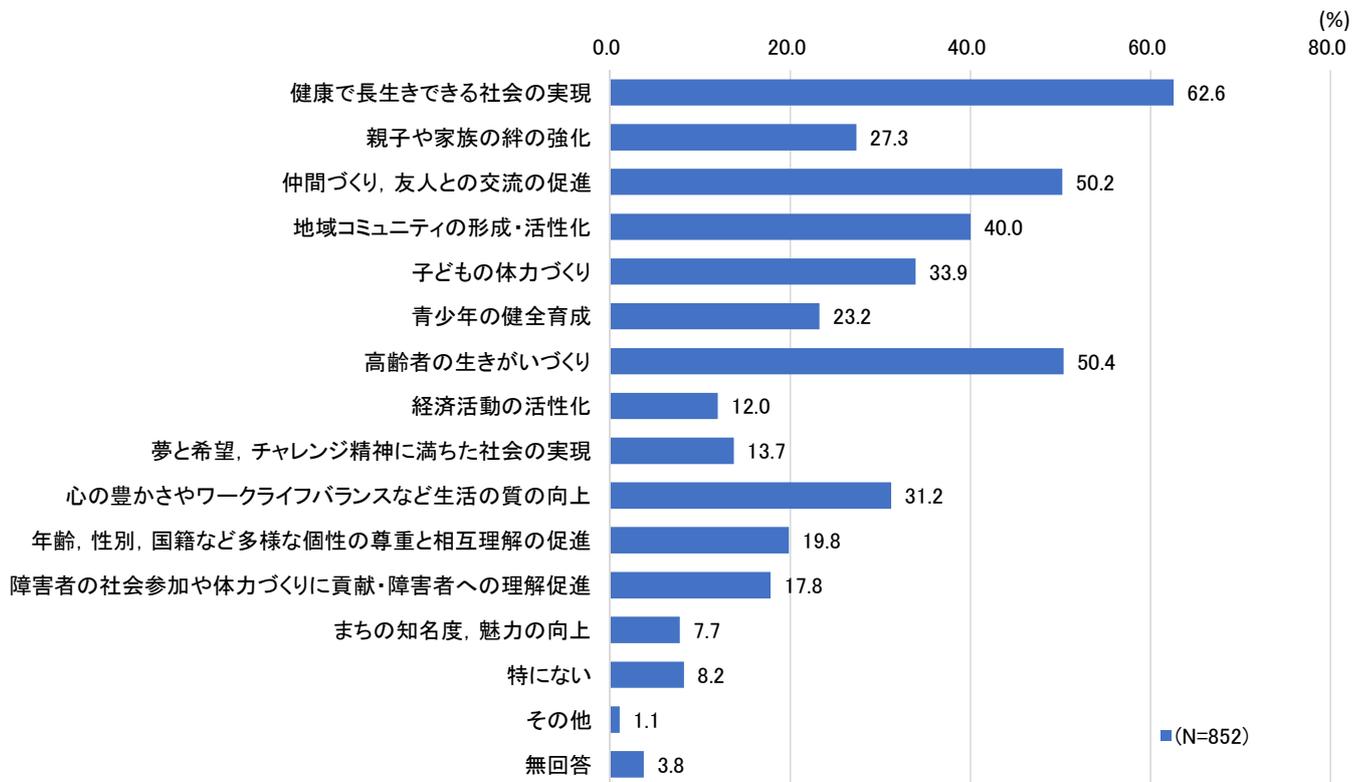


※類似した意見を整理して、分類・集計した結果を示している(複数意見は、それぞれの項目でカウントしている。)

(23) 市民の運動・スポーツの活動促進に期待する効果(N=852)

【複数回答】

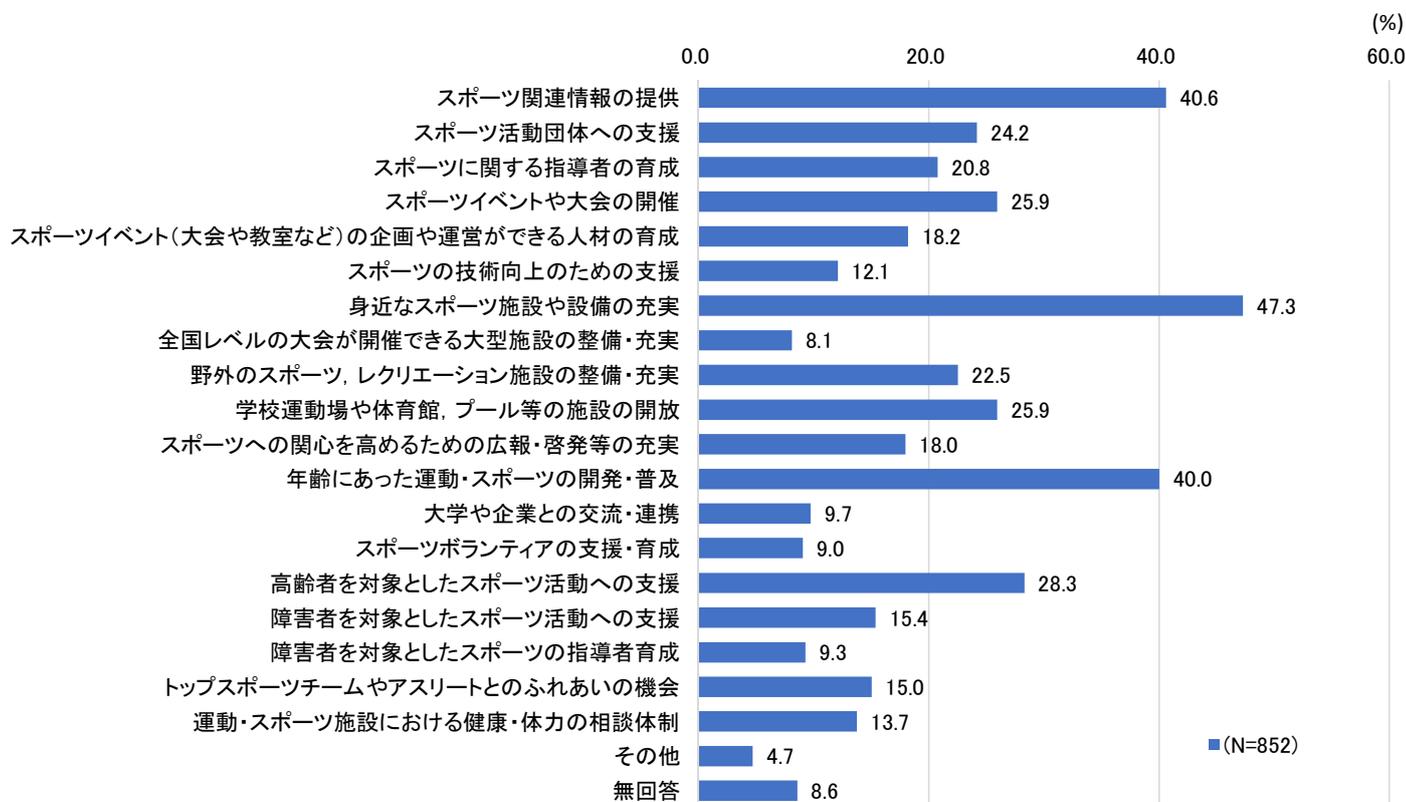
○市民の運動・スポーツの活動を盛んにすることで期待する効果としては、「健康で長生きできる社会の実現」「高齢者の生きがいづくり」「仲間づくり, 友人との交流の促進」が上位にあげられている。



(24) 市民の運動・スポーツの活動をさらに活発化するために(N=852)

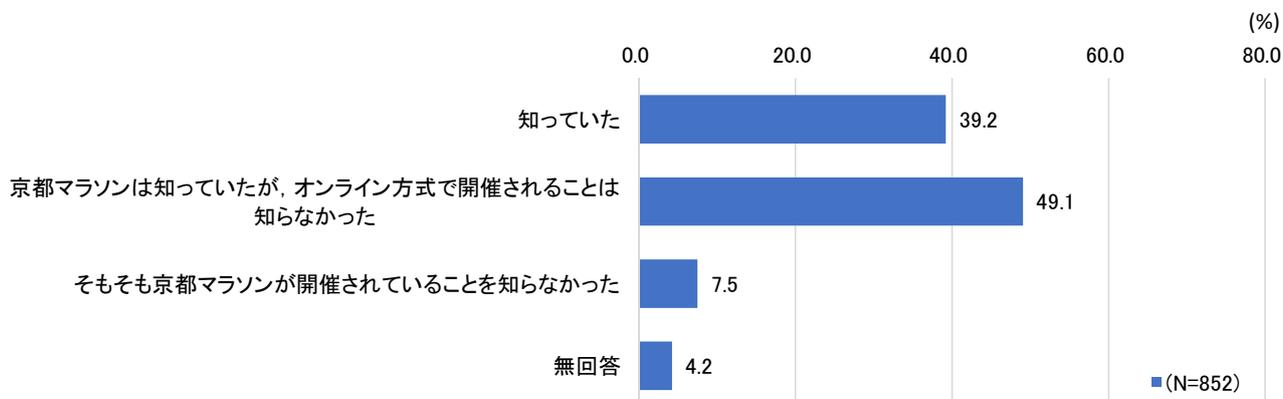
【複数回答】

○市民の運動・スポーツの活動をさらに活発化するために望むこととしては、「身近なスポーツ施設や設備の充実」「スポーツ関連情報の提供」「年齢にあった運動・スポーツの開発・普及」が上位にあげられている。



(25)「京都マラソン」のオンライン方式の開催(N=852)

- 「京都マラソン」のオンライン方式の開催されることについては、「知っていた」人は39.2%と約4割。半数近くが「京都マラソンは知っていたが、オンライン方式で開催されることは知らなかった」と回答。
- 「京都マラソン」自体を知らなかった人は7.5%と1割未満。



(26)「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催(N=852)

- 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が1年延期されて開催されることについては、約7割が「開催されることを知らなかった」と回答。
- 開催されることは2割以上が知っており、延期されたことも約2割が知っているものの、内容までよく知っている人は2.8%とわずか。

